

登録コード	L2041600		開講年度	2026			
担当教員	澁谷 豊			副担当			
授業科目	比較文学発展演習						
英文授業名	Comparative Literature: Advanced Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	人文201演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力				過去の文学研究の批判的継承のうえに立って新たな読みの可能性を探れるようになる。		
	【2022年度以前加付対象】他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー				教員や他の学生の考えを明晰に理解した上で、自己の意見を的確に表現できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】				比較文学の基礎学力と専門的学力を身に付け、学士（文学）の称号にふさわしく思索し、受容し、判断できるようになる。		
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】				文学の比較研究に必要な情報を的確に収集し、理解し、発信することができるようになる。		
	【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。【開拓力・企画発想能力】				比較文学の専門的学力を基盤として、持続可能な社会を実現するための課題に取り組むことができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	学生の主体的な研究発表を軸とした授業である。 まず、比較文学の研究の主要なテーマと方法について教員が解説する。（ただし、比較文学について基礎的な知識は持っているものとみなした上での「発展」的内容の解説になる。）その上で、受講生は少なくとも今学期中に一回（可能なら二回）は研究発表を行う。即ち「フランス心理小説」「フランス・ロマン主義文学」「フランス自然主義文学」「フランス象徴詩」「フランス・モダニズム文学」の計5項目の中の一つを選び、選んだ項目の中から担当教員の助言を受けつつ自分で具体的な一作品を選定し、研究発表を行う。日本においてその作品がどのように受容されてきたか、ということについてもできる限り調査・分析をすること。なお、フランスの文学作品は原則として原典にあたることとする。						
授業計画	1 ガイダンス（授業のねらいと進め方を解説し、参考文献を紹介する） 2 比較文学研究のテーマと方法 3 発表題目の検討 4 発表題目の選定 5 途中経過報告会その1）：書誌など 6 途中経過報告会その2）：発表プランなど 7 研究発表・研究論文のルール（注のつけ方など） 8 受講生発表＋質疑応答（フランス心理小説をめぐる） 9 受講生発表＋質疑応答（フランス・ロマン主義文学をめぐる） 10 受講生発表＋質疑応答（フランス自然主義文学をめぐる） 11 受講生発表＋質疑応答（フランス象徴詩をめぐる） 12 受講生発表＋質疑応答（フランス・モダニズム文学をめぐる） 13 全体討議：フランス文学について 14 全体討議：日本におけるフランス文学受容について 15 まとめ（15分を授業アンケートにあてる） 受講生の理解と関心に応じて計画を変更することがあり得る。						
成績評価の方法	発表（60％）＋授業への参加度（40％）で評価する。						
成績評価の基準	日本とフランスの文学作品を比較文学的見地から原書に拠って研究し、主要な先行研究を踏まえたうえで新たな知見をもたらすことができれば「卓越している」。 日本とフランスの文学作品を比較文学的見地から研究し、主要な先行研究を整理しながら論を展開できれば「かなり上にある」。 日本とフランスの文学作品を比較文学的見地から研究し、説得力のある論を展開できれば「やや上にある」。 フランスの文学作品を研究し、説得力のある論を展開できれば「その水準にある」。						
事前事後学習の内容	事前授業としては特に発表の準備（ハンドアウトの作成を含む）が、事後授業としては、授業中に指示した文献を大学図書館などを利用して入手し、幅広く参照することが求められる。						
履修上の注意	「発展」演習であることから、この授業は比較文学について基礎的な知識を有し、かつ、中級程度のフ						

履修上の注意	ンス語力を身に着けている人を対象にしている。（「比較文学概論」と「比較文学基幹演習（枝番は問わない）」を修得済みであることが望ましい。） 澁谷豊研究室（比較文学）に所属している３年生、４年生には、この授業を履修することを強く勧める。受講生には積極的に討論に参加することを求める。 出席は出席確認システムを使用してとる。
質問、相談への対応	メールでアポイントメントをとること。yshibuya@shinshu-u.ac.jp
教科書	使用しない。
参考書	柏木隆雄『交差するまなざし - 日本近代文学とフランス - 』朝日出版社 2008年 その他、授業中に指示する。